



ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む  
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよ 仲良く助け合っ  
たの せいかつ 楽しく生活していくことを願って、活動  
をつづ 続けています。

# くろするろ〜ど

がつしんねんごう  
2020/1月新年号

かいほうし  
会報誌

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

げっかん がつ  
〜サロン月間カレンダー1月〜



なご こくさいこうりゅう  
「和やかに国際交流」  
ねん つど ほうこく  
〜2019年サロンの集い報告〜

## ■文化交流活動

1月毎水（8、15、22、29日）午後1時半〜4時

「ダンス教室」15名・無料

場所：サロン託児室

1月24日（金）午前10時〜12時

「書道」定員なし・参加費100円

場所：サロン3階奥の部屋（倉庫前）

\*申し込みは22日（水）まで

★以上の対象は学習者とボランティア  
詳しいことは、事務局まで

## ■定例勉強会

1月15日（水）午前10時〜12時

場所：サロン3階奥の部屋（倉庫前）

テーマ：「初級Ⅰ・Ⅱを終えた学習者は

こんなことを学びたがっている！」

対象：ボランティアと学習者

## ■農工大府中キャンパスミニ探訪ツアー

1月24日（金）午前10時〜12時半

集合：農工大府中キャンパス正門前

探訪先：農学部先進植物工場研究施設など

定員：10名（応募者多数の場合は抽選）

対象：ボランティアと学習者

\*申し込みは1月10日（金）まで事務局へ

恒例の「サロンの集い」が、12月14日（土）17時より、プラッツの「バルトホール」において、205名の学習者、ボランティア、市民の参加のもと、盛大に開催されました。師走の多忙な中、高野市長はじめ、日頃、教授法研修会、講演会でお世話になっている山田しげみ先生、小林幸江先生も来賓としてご参加くださいました。

学習者代表の挨拶では、胡佳さんが、サロンでの学習や日本語学習発表会での司会経験により日本語の自信がついたこと、日本での就職が決まるまでの苦労談、そしてボランティアの方々への感謝などを含め、素晴らしいスピーチを披露してくれました。乾杯の音頭は、東京武蔵府中ロータリークラブの会長が事情により欠席され、急遽、学習者の王雪冰さんが見事な代役を務めてくれました。今年は、二人の中国の学習者が開会式を盛り上げてくれました。謝謝！！

「サロンの集い」の楽しみの一つは、世界の料理を味わうこと。今年は、約40名の料理チームの皆さんにより、8ヶ国21種類の料理が供されました。学習者とボランティアが阿吽の呼吸で手を取り合い、心を込めて再現してくれたそれぞれの国の故郷の味は、参加者の方々の頬を緩ませ、歓談に花を咲かせました。

お腹が満たされたあとは、お馴染みのアトラクションタイム。中国の有志の方々の踊りは、女の子が



# 世界の文化

## 「可愛いメロメロ三段撃」

～府中六小での半日の交流～

ルウ アン ちゅうごく  
蘆 昂 (中国)

大人になったときの儀式で穿くプリーツスカートをモチーフにした民族舞踊。スカートが軽やかにひるがえるその踊りは、さながら、華麗な花びらが典雅に舞うようでした。ハワイアンダンスに続くフィナーレは、学習者のアルベルト・ピッツォさんによるピアノ演奏。世界的なピアニストによる魔術師のような指運びに、参加者はうっとりとして耳を傾けていました。演奏後、彼の伴奏で『上を向いて歩こう』と『ふるさと』を全員で合唱するサプライズまであり、世界的なピアニストの伴奏で歌えるという二度とない貴重な体験をしました。

師走のひととき、学習者、ボランティア、そして市民の方々が和やかに国際交流を体験できた2019年の「サロンの集い」でした。会を主導していただいた企画部会の皆さまはじめ、お手伝いして下さったボランティア、学習者の方々、お疲れさまでした！  
(会報部会・和田)



華麗な音色を披露してくれたアルベルト・ピッツォさん



各国の味を楽しむ参加者のみなさん

11月21日、秋が終わって冬の気配が感じられる頃、サロンのおかげで六小を訪れた。

実は去年、小学校との交流活動があったが、いろいろな事情があってチャンスを逃した。今年になって二度と逃さないように、お知らせを見ていち早く申し込んだ。

内容については、当然中国の伝統的なものがよいが、私一人だけ喋ると子供たちの参加度がなくなるので、色々考えたところ、自ら体験できる中国の伝統行事「燈謎(とうめい)」を選んだ。燈謎とは、上元節(旧暦正月十五日)と十五夜(旧暦八月十五日)に中国各地のお祭りの中でやる行事である。提灯の下に糸を付けて、その糸の端に謎々か書いてある札か紙をぶら下げる。お祭りの時、街中にたくさんさんの提灯が吊るされて、皆が一個一個の謎々を見て当て楽しむ。実物の提灯、札など、行事で使われる道具を用意して見せたかったが、タイミングよくないか、どこにも売っていない。残念だった。仕方なく行事の写真カラーでプリントしたほか、紙を棒状に一つ一つ切って、なるべく実物の札のように作った。

当日、私を含めて中国人3人、イタリア人1人、ロシア人1人、合わせて5人が「異文化交流アンバサダー」として訪問しに行った。私自身は初めて小学生に向けて中国文化を紹介するので胸がドキドキしていた。が、学校の廊下に入って教室に向かって歩く途中、一人の子が大声で、よくも元気で「你好(中国語のこんにちは)」って挨拶してくれた！メロメロ第一弾！この「不意打ち」に嬉しいと思っ、その子の大きな、好奇心が溢れ出そうな目を見て、わずかな緊張感がずっと消えた。

一つの班あたり15分で、合わせて4つの班の小学

三年生たちに紹介し始めた。顔が少し強張って一  
 班目をやってから、落ち着くようになって、子供た  
 ちの一番期待しているところが分かるようになった。  
 やはり燈謎を当てることだった。燈謎の紙を黒板に  
 貼った途端、座っている子たちは目が光って、ざわ  
 ついて、そして先を争って手を上げた。班ごとに燈  
 謎を4つぐらい出したが、印象深いのは、二班目の  
 ひとりのおとこの子が一番早いだけではなく、なんと全問  
 正解だった。クレバー！4つやり終わって、子供た  
 ちが「面白い」「もう一個やりたい」って物足りなげ  
 に頼んで、何よりも嬉しかった。自由に質疑応答の  
 時間にも、「なぜ中国人は赤が好きだか」「なぜ万里の  
 長城が繋がってないの」などのいい質問を連発して  
 くれて、とても濃厚な1時間を過ごした。

そして給食の時間になった。まずは机の移動。6  
 つぐらいの勉強机を繋いで大きな食卓を作った。  
 私は小学生のように他の4、5人の子と食卓を囲  
 んで座って待っていた。当番の子たちは専用の服に  
 着替えて、帽子を被って、料理と食器を次々と運ん  
 できて皆に分け始めた。この間皆大人しく、効率よ  
 く自分の役目を果たしていた。食べる前と食べた後、  
 一人の子は代表として私の側に立って二回感謝の  
 文書を読んでくれて、正直恥ずかしかった。食べ物  
 はサバ、ごぼうの和え物、ご飯と牛乳、美味しかつ  
 た。食後、全員が食器を素早く片付けて、牛乳パッ  
 クを洗って畳んで袋に入れて、当番の子たちは食器  
 をシンクに運んで洗った。始めから終わりまで、私  
 はそのルール厳守と秩序良さに驚いた。このような  
 給食のやり方は中国にはめったにない。大変貴重な  
 体験だった。

たった半日の交流がとても早くて、嫌でも別れる  
 時間になった。教室から出る前に、鈴木ちゃんと  
 高木ちゃんが紙の箱を、中山君が千羽鶴を、他の名前  
 が知らない子が切り紙を…皆が手作りのプレゼント  
 を贈ってくれた。その中で斎藤ちゃんは「これは私



の名刺です」って大人びて言い  
 ながら、自分の手作りの「名刺」  
 を渡してくれた～メロメロ第二  
 弾！私もプレゼントを用意す  
 ればよかったのに…

校門まで行って、子供たちは

自発的に見送りに校門で集まってきた。集合写真を  
 撮って、最後に私たち5人は、子供たちとハイタッ  
 チしながら、彼たちが作った二つの列の中を通り抜  
 けた。初冬は寒くて私の手はとても冷たいのに、  
 子供たちが私の手を長く、長く握ってくれて離して  
 ほしくないようだった。メロメロ第三弾…

「メロメロ三段撃」によって、子供たちが本当に  
 可愛くて、可愛くて、私はお父さんの気分になった。  
 それに、私が紹介してあげた中国文化より、むしろ  
 もらった部分が大きいと感じる。楽しくてもっと、  
 もっと交流したかった。今回の交流の経験ともらっ  
 たプレゼントを、宝物として大事にしたい。いつか、  
 また会おう！



生徒と語り合う  
 ルウ・アンさん

## 「私のふるさとを語る」

デニス イリュシェンコフ (ロシア)

皆さん、こんにちは。デニスです。よろしくお願  
 いします。

今日は私の故郷と国について少し紹介をしたい  
 と思います。これは私の故郷です。そこは、Sosnovy  
 Borと呼ばれていて、松林という意味です。とても小  
 さい町です。人口は約70,000人です。多くの松があ  
 るのは、みなさんにも見えると思います。

私は大学に行く前に18年間この町に住んでいま  
 した。

このSosnovy Borという町はサントペテルブル  
 グから西に80キロにあります。ここです。国の北西で  
 す。

松林があるので、この町の空気は新鮮で本当に良  
 いにおいがあります。私は松のにおいが好きです。皆  
 さんにも、このにおいを嗅いでみて欲しいと思いま  
 す。もしかしたら、北海道にはこのような木がある  
 かもしれません。

それから、この町はフィンランド湾の海岸にあり

ますので、夏には泳ぐことができます。

これが、写真です。とてもきれいですね。

私は大学で勉強するため Санкт-Петербург に移りました。この町の名前は皆さんも多分知っていると思います。 Санкт-Петербург は1703年に、できましたので、まだ316歳です。ヨーロッパ式の建物がたくさんあるので有名です。とても美しいです。

この町の創始者ピーター大王は Санкт-Петербург が、水の上にあるベニスのように創られるように望んでいました。なぜなら町には水路がたくさんあって、時々、北のベニスと呼ばれていました。しかし、この望みは完全には実現しませんでした。実際に、私は、水路が冬の間に凍ってしまうのでベニスのように町が機能するのかが想像ができません。現在は凍った氷を溶かす特別な装置がありますが、当時はとても難しかったことでしょう。

この Санкт-Петербург は北にあるので、夏には白夜になります。白夜では、夜になってもまったく暗くありません。この白夜は観光客にとっても魅力です。夜の間に散歩もできます。とてもロマンティックです。それから、跳ね橋もあります。

この橋は夜の間に、船が通過できるように開いています。この橋は夏の間に、観光客や地域の人たちの人気の場所です。

これは、pyshki と呼ばれている地元の食べ物です。形はドーナツのように見えますが、味は違います。味はプレーンで形は丸く、中には何も入っていません。値段はとても安く、ひとつ20円です。外から見た市内で最も人気のある古い pyshki カフェです。

この猫は pyshki が大好きです。とてもかわいいです。子供がいるお客は、この猫をなでるためによく来ます。ある時、その猫が私の足に飛び乗って寝ていましたが、その後、用事のため私が離れたときに、私の足をひっかきました。それで、その場所の私の印象は悪くなりました。

このように、お客が多いので道路に長い列があります。pyshki は独特の風味がなく、自宅でも調理することができるので、どうしても多くのお客が列に並んでいるのか、個人的にわかりません。

これも pyshki の店の写真です。

それから、興味深いのは教育制度です。学生は、たいいてい11年間同じ校舎で同じクラスメートと勉強します。でも中学校を卒業して高校に入る9年生のとき、リベラルアーツか自然科学を選択することができます。私の場合はリベラルアーツを選びましたが、何故かまた小学校と中学校で勉強したクラスメートと一緒にになりました。みんな、同じリベラルアーツを選んだからでした。

私は日本の温泉が大好きです。私はロシア人がリラックスするために行く番屋を思い出します。番屋は一般的にサウナのようなのですが、ロシアのスタイルは樫や樺などの木で作った簾のようなもので、身体をさすります。とても元気になり、気持ちがいいです。これです。見てください。日本の温泉と同じようにプールがある番屋も時々ありますが、泳ぐことはできません。

日本で私が驚いたことは、日本にはセントラルヒーティングがないため、最初は秋と冬の室内の温度が低いことです。暖房は便利ですが、風が強すぎて、あまり好きではありません。

もうひとつ、私が驚いたことは、日本人がすべての果物の皮をむくということでした。ロシアでは、果物の皮をむくことはめったにありません。りんごも桃も梨も、そのまま食べます。

私の今後の希望については、まず修士課程を修了して、その後、日本で仕事を見つけないと、東



京は非常に便利で、冬を除けば、一般的に暖かいです。私は暖かい気温が好きなので、日本、特に東京に住みたいと思っています。

皆さん、これで終わりです。ご清聴ありがとうございました。ご質問がある場合はどうぞ。

今日は克蘭ベリージャムティーを用意しました。

編集部注：この原稿は、10月5日に行われた「国際ふれあい会」で、デニスさんがパワーポイントを使用しながらスピーチされたものです。

# 「今日、皆さんとさようなら…」

グエン ヴァン チュオン (ベトナム)

みなさん、こんばんは。

私はチュオンです。ベトナムから来ました。東芝の社員です。今まで2年間日本にいました。来週ベトナムへ帰ります。今日は私がここで勉強する最終日です。悲しいですが、今日皆さんとさようならを言わなければなりません。

私の先生は里村先生です。2年前にサロンで勉強を始めました。その時、私は日本語がちょっとわかりました。先生のおかげで日本語がだんだんよくなりました。今年の7月に日本語能力試験の3級合格でした。里村先生は日本語だけでなく、いろいろな事も教えてくれました。日本の習慣とか、美しい場所とか、おいしい料理とお土産などを紹介したり、ネットで買い物を手伝ったりしてくれました。先生、今までお世話になりました。どうもありがとうございました。

そして、日本で皆さんと一緒に参加したことの思い出もいろいろありました。バス旅行とか、花火を見る会とか、BBQ パーティーとか。楽しかったです。それは忘れない体験でした。将来は機会があったら、もう一度日本へ帰りたいです。

みなさんと先生たちはいつも助けてくれてありがとうございました。皆さんと先生たちもどうぞお元気で。以上です。

編集部注：これは、11月30日に離日されたチュオンさんが、金曜夜の最後の授業（11/22）で挨拶された原稿です。



わたし  
私のふるさと ~17~

## 「ふるさと佐野とわが町府中」

きんようごご さかくら いくお  
金曜午後ボランティア 坂倉 郁夫

私のふるすとは栃木県の佐野市です。佐野と言うと、最近では、「ああ、あのラーメンの…」とか「厄除け大師で有名な…」などと言われますが、昔は、細い路地が四通八達した、風情ある城下町でした。

城は、市の北東部にある唐沢山という低山（見晴しがよい）に本城があり、佐野駅の背後にある城山という丘に出城がありました。

この城を築いたのは、藤原秀郷（またの名を田原藤太）という平安時代の武将。

秀郷公は、下野の国の豪族として、平氏にも源氏にもつかず孤塁を守っていましたが、平将門が「新皇」を標榜して反乱を起し、関東を制圧しようとする、敢然と立ちあがってこれを討伐。その功により、朝廷より、下野の国の国司とともに武蔵野の国の国司に任ぜられ、武蔵野の国の国府があるわが府中に居を構えました。

その館あとに建立されたのが、府中市片町にある曹洞宗寺院の高安寺です。境内奥には今も秀郷公を祀る社がひっそりと立っています。

ふるさと佐野とわが町府中は、藤原秀郷という人物によって結ばれていました。



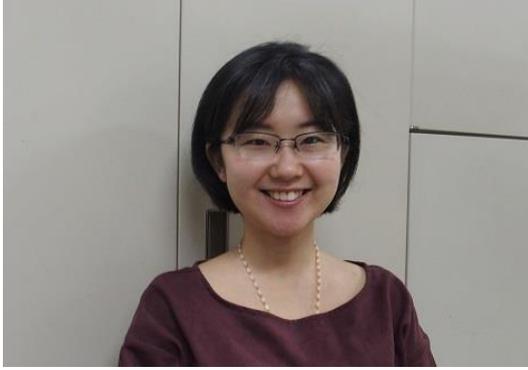
ひでさと きよじょう からさわやまじょうせき  
秀郷の居城があった唐沢山城跡

みな

がくしゅうしゃしょうかい

# 皆さんよろしく◇学習者紹介

おう うんえい ちゅうごく  
王 云齋さん (中国)



## 「国連で働くのが夢です」

2018年9月東京外国語大学修士課程に留学するため北京から来日しました。

専攻は「平和と紛争」ですが、汚染が地球をダメにしてしまうような、地球規模での平和を考え、女性の力を発揮して環境問題に取り組むために勉強しています。

大学では会計学を勉強しましたが、来日する前に働いていた会社では、商品をつくるにあたって、汚染を少しでも少なく、またリサイクルにも取り組んでいることを世間の人に知ってもらうための広報の仕事をしていました。

修士号を得てから、国連で働きたいと思っています。元来、性格的に楽観主義なところがあるので、国連のどのような部門でも、どこの国に行っても大丈夫とおっしゃっています。

「エンジェル」というニックネームを持つ、かわいらしいお嬢さんですが、しっかりとした考えを持って世界に羽ばたこうとしています。

趣味はお料理で、2年間毎日朝ごはんを作ったのをInstagramに載せ、それを見た出版社が本にしたいと言ってきて、本になったそうです。残念ながら、もう完売してその本は手に入りませんが、写真を見せていただいたら、朝ごはんにしては、とても豪華でおいしそうでした。ご本人もおっしゃっていますが、2年間も続けた持続力は、他のお仕事でもきっと良い成果を残すことでしょ。 (堤 林)

しん

# 新ボラさん こんにちは

すいようご ご やながわ あい  
水曜午後ボランティア 柳川 愛

なぜボランティアをしようと思ったのかというと、「自分ができることで、人の役に立ちたい」と思う気持ちが年々強くなってきたからです。

私は、2001年から現在まで、都内の日本語学校において主に留学生への日本語教育に携わっています。やってみようと思ったきっかけは、9月に行われた文化庁日本語教育研究大会です。そこで地域における日本語教育の話聞き、地元府中で何かできないかと思い、調べたところ、こちらの教室があることを知りました。

また、数年前まではフルタイムで働いていたのですが、現在はパートタイム勤務に変えたことで時間的精神的に余裕ができたこともやってみようと思った理由の一つです。

これまでは、ひらがなや漢字などの文字指導から日常会話、JLPT、EJUなどの試験対策、しごと日本語まで幅広く授業を行ってきました。様々な国(14カ国)の留学生や地域の外国人の方などに日本語を教えた経験があります。これまでの経験を活かして、一人一人にあった学習サポートができればと思っています。

趣味は、旅行です。これまで13カ国40以上の都市を訪問しました。きれいな風景や花の写真を撮ることやおいしいものを食べることも大好きです。特にインド料理のようなスパイスを使った料理が好きです。ヨガもします。みなさんと交流できることをとても楽しみにしています。いろいろお話ししましょう。

きんようご ご かさま とよこ  
金曜午後ボランティア 笠間 豊子

私は3年前まで17年間老人ホームでリネン交換のボランティアをしていました。その後何かしたいと思いつつも何もせず……

昨年長年アメリカに住んでいる姉が、久しぶりに

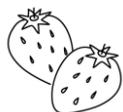
娘と10歳になる孫を連れて日本に一時帰国しました。

姉は私に日本語を孫に教えて欲しいと言いました。「私ではすぐふざけたりしてダメだから」といわれ、私は全く日本語の解らない子供に何をどう教えてよいか困りました。結局1ヶ月の滞在で、私は彼に何も教えてあげることが出来ずに帰国しました。短期だったことありますが、ちょっと残念！！

そして今春そんなボランティアがあると知り、さっそく研修に参加しました。

日本語の教師をしている友人から、結構難しいとは聞いていましたが、結構どころではなく、やはり世界一難しい言葉？改めて本当に日本語の難しさを知りました。

こんな難しい言葉を教えられるかな、大丈夫かなと少々不安ではありますが、少しでもお役にたたせていただけたら嬉しいです。また異文化にふれる事も楽しみにしています。



### 金曜午後ボランティア 吉江 美幸

恩返しの気持ちを込めて。。以前、海外で生活する機会に恵まれたものの、一番苦労したのがやはり言葉の壁でした。思うように言葉が伝わらず、大量のイチゴを買ってしまったりと四苦八苦。それでも楽しい思い出ばかりなのは現地の方にたくさん助けていただいたおかげです。

そして今度は私が日本で外国の方に何かお手伝いできる事はないかと思い、こちらの日本語教授法研修を受講しボランティアデビューを目指しました。

改めて日本語と向き合うと、自動詞と他動詞の使い分けを教える難しさに悩む反面、今まで知らなかった日本の伝統的な文化や習慣などの新しい発見があり、とても刺激になりました。

9月からいよいよデビュー、先輩ボランティアさんに助けていただきながら、学習者さんの日本での生活が楽しく充実したものになるように、一緒に学んでいきたいと思えます。

## わたしの☆つばやき

### 「トカゲのしっぽ切りの真実」

金曜夜ボランティア 里村 恵

台風一過の朝、安全な場所に避難していた体長13cmくらいのトカゲが姿を現し素早くベランダから私室に入り込んで来ました。

私は爬虫類をペットにする趣味はないので手近にあった粘着テープ式クリーナーでそっと室外へ追い払おうとしました。するとその体に触れるや否や侵入者は動き廻るしっぽを残し本体は素早く逃げました。どうやら残したしっぽでハンターの気をそらそうと試みたようです。

トカゲのしっぽ切りを実際に眼にしたのは人生初でしたので興味が湧き生態を少し調べてみました。世間でよく知られているようにトカゲは窮地に陥るとしっぽを切ります。しっぽの付け根に紙のミシン目のようなところがあり命の危険を察知するとそこを自切して逃げます。

人間社会では企業で不祥事が露見した時などに上司が部下に責任を取らせて自らは追及を逃れる行為を「トカゲのしっぽ切り」に例えますが実際にはトカゲがそれをする時には命を落とす覚悟でしています。何とか命をとりとめた場合には元のしっぽには及ばないまでも新しい物が生えてくるようです。

人間社会では切った後、責任を逃れた側がのうと生きている場合が多いですがトカゲの自切は命がけなので、その例えには若干違和感があるというのが真実です。



# ひろ ば みんなの広場

へんしゅうこうき  
～編集後記～

## 「教授法研修会Ⅱのご案内」

今期の教授法研修Ⅱが、1月21日(火)より開催されます。全10回のうち、山田しげみ先生による講座が8回、中村則子先生による音声講座が1回、「外国人が置かれた日本事情」についてが1回という内容になります。

日時 : 1月21日～3月17日 毎週火曜日  
午後2時～4時

場所 : サロン3階第3・4会議室

受講料 : 無料

対象 : 今期の教授法研修初級Ⅰ受講者  
現ボランティアで初級Ⅱの未修者

\*上記以外の方で聴講を希望される方は、単発での受講も可能です。

テキスト : 「みんなの日本語初級Ⅱ」2,500円  
(各自購入・事務局でも注文可)

\*申し込みと詳しいことはサロン事務局まで  
(研修部会)

オリンピックの年、幕開けです。リオから始まった「難民選手団」は国連で務められた緒方貞子さんの尽力があったという。26年前、1994年の日記に「国際オリンピック委員会と合意、難民に運動器具寄贈のありがたい申し出。『難民オリンピック』、夢は膨らむ」と。日の当たらない場所で、その場にいる人々を大切に影の労苦。「有難う、緒方さん、東京で難民選手団の入場行進が始まりますよ」

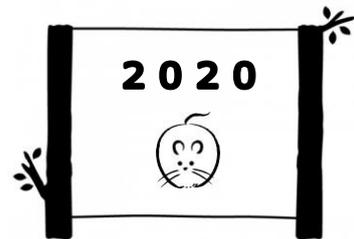
また、東京五輪で8強入りの「日本サッカーの父」デットマール・クラマー氏は、「一番の先生は試合だ。試合を経験すれば、何が大切で何が必要か教えてくれる」と言っています。

日本語学習会の本年の幕開け。学習者一人一人を大切に労苦を厭わず、学習会(試合経験の場)で何が大切で何が必要かを学ぶ一年にしたいと思います。学習者一人一人が日本語を駆使して人生の入場行進を始める。その姿を夢見て。(末田)



## 世界の国から あけましておめでとう

サロンで日本語を学んでいる方々が、自分の国の新年のあいさつを書きました。サロン事務局に展示してあるので、ぜひご覧ください。



【編集】 編集長 : 和田泰弘

会報部会 : 堤林、和田、岩城、末田

【事務局】 電話 : 042-352-4178

E-mail : [mail@fuchukokusai.gr.jp](mailto:mail@fuchukokusai.gr.jp)

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>